

公正で個別最適な探究的な学びの実現に向けて

未来は、つくれる。

KATARIBA

Shape the Future

認定NPO法人カタリバ
代表理事 今村久美

公正で個別最適な探究的な学びの実現に向けた課題

1. 探究における個別の課題設定に寄り添うことは教員だけでは膨大なコストがかかる（教員定数の不足）
2. 特に新学習指導要領で位置づけられた総合的な探究の時間は、一人の教員のサポートだけでは個別最適な探究を実現することは非常に難しい（教員の専門性不足）
3. 教室の中だけでの探究は生徒の意欲も探究も深まらない。オーセンティックな課題（リアルな課題）に向き合っこそ真の探究が始まる（探究フィールドの不足）



「社会に開かれた教育課程」を
教員だけの力で実現することはできない

社会に開かれた教育課程の3つの要素

(1) 目標の共有

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有すること。

(2) 資質・能力の明確化

これからの社会を創り出していく子供たちに求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。

(3) 地域との連携協働

教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、学校教育を学校内に閉じずに実現させること。

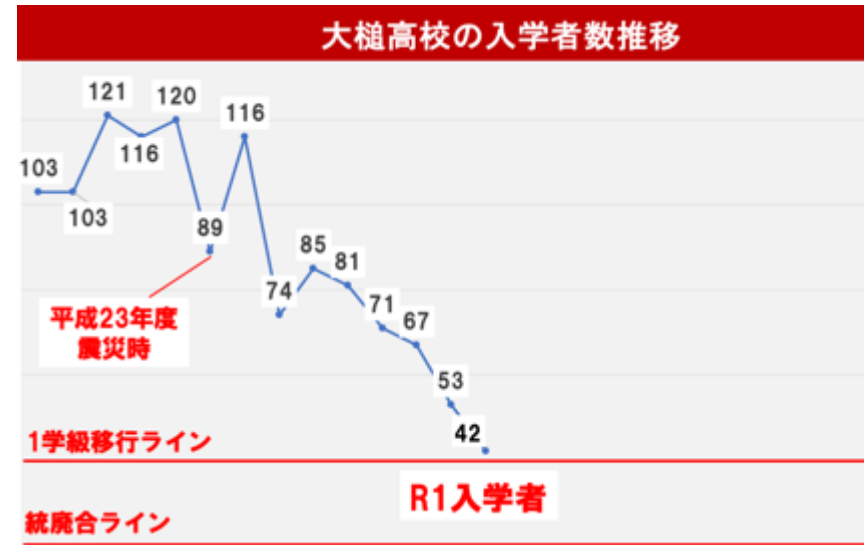
岩手県立大槌高校が抱えていた課題

※文部科学省 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 指定校

- 2011年の東日本大震災で壊滅的な被害を受けた岩手県大槌町にある大槌高校。
- 最大の使命は、**地域の復興を担う人材の育成**を図ること。
- しかし震災の影響で人口がどんどん減ってしまい、**入学者も減る状況**にあり、**統廃合の危機**に瀕していた。
- **教育課程を魅力的な学校にすることで、志願者を増やし**、地域と高校の活性化、存続を図った。



▲体育館が避難所となった高校



▲入学者数は震災後急激に減少

「社会に開かれた教育課程」実現に向けた大槌高校の取り組み

(1) 目標の共有

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有すること。

●生徒全員・教職員全員でワークショップ

全校集会や職員会議にて、「大槌高校の何を変えたいのか」「どのような学校にしていきたいか」について意見を出し合った。



●地域を巻き込んだワークショップ

100名以上の地域住民が集まり、「大槌高校はどのようなべきか、何を学ぶべきか」について意見を出し合った。



生徒・地域・教員からの声

自分に関すること

何事にも
一生懸命な人

大槌町の復興に
関心がある人

ポジティブ

地域課題を
解決する人

常識のある人

礼儀がある人

メリハリのある人

他者に関すること

思いやりがある人

「和」を保てる人

個性を大事に
できる人

愛嬌のある人

寄り添える人

周りに気づかえる人

多方面から
考えられる人

未来に関すること

向上心がある人

進学できる人

行動力がある

諦めない人

逆境に強い人

大槌高校魅力化構想骨子（スクールポリシー）

魅力化
コンセプト

大海を航る、^{ハンマー}大槌を持とう

目指す
人材像

自立

意志がある

協働

仲間とともにある

創造

逆境から創り出す

育む土壌

海

地域

空

希望

山

多様性

風

挑戦

学校の
目指す姿

①

生徒一人ひとりの目標が応援され、
それぞれの持つ強み（大槌）を見つけられる学校

②

未来社会に生きる力をつける学校

③

多様な価値観で多様な個性を支える学校

④

地域が学びを育て、学びが地域を育てる学校

「社会に開かれた教育課程」実現に向けた大槌高校の取り組み

(2) 資質・能力の明確化

これからの社会を創り出していく子供たちに求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育てていくこと。

●資質・能力を明確化するWGの設置

学校内にWG（ワーキンググループ）を設置し、教員が意見を出し合いながら、育てたい資質・能力とルーブリックを作成した。



●学校設定教科「地域みらい学」設置

通常は週3コマの総合的な探究の時間を増単で5コマに変更した。マイプロジェクトをカリキュラムの中心に置き、個々に応じた探究活動を実施。



大海を航る、大槌を持とう

自立

ジブンゴト

三陸地域の復興や自身の未来に向けた前向きな意志

課題設定

課題解決や自己実現のために、取り組むべき課題を明らかにする力

協働

共感・相互理解

価値観や意見の違いをみとめ、前向きに受け容れる力

One Team

自分の意志をよりよく伝えながら、多様な人を巻き込む力

創造

レジリエンス

困難な状況をプラスに変え、前向きに挑戦し続ける力

価値創造

新しい視点やアイデアをつくりだし、課題解決に活かす力

[参考] 三陸みらい探究 ルーブリック評価表

育てたい人物像	資質・能力	内容	レベル1 (1学年終了時の目標状態)	レベル2 (2学年終了時の目標状態)	レベル3 (3学年終了時の目標状態)
			高校生としての自覚	社会の一員としての自信	進路実現・社会人としての自立
自立 (意志がある)	1	ジブゴト	三陸地域の復興や身の回りの出来事を自分に関係のあることと考え、自分の意見を持つことができる。	社会や未来を良くしようとする意欲を持ち、志を自信をもって語る事ができる。	社会の一員として自覚をもち、よりよい未来にしようとする意志を持って進路選択ができる。
	2	課題設定	課題解決や自己実現のために、取り組むべき課題を明らかにする力	理想の姿と現状のギャップから問題を見つけ、取り組むべき課題を考えて実行できる。	課題設定を繰り返しながら培った力を生かし、これからの生き方や進路実現に結びつけることができる。
協働 (仲間とともにある)	3	共感・相互理解	自分と異なる他者の意見や価値観を尊重し、受け入れることができる。	対立する意見や価値観を取り入れ、その背景を想像することができる。	意見や価値観の対立を社会規模で考え、社会全体がよりよくなるための考えを持つことができる。
	4	One Team	自分の意志をよりよく伝えながら、多様な人を巻き込む力	自分の考えをはっきりと伝え、所属する集団の中で協力して活動することができる。	自分の考えを論理性と熱意をもって伝え、多様な立場の人の中で活動することができる。
創造 (逆境から創り出す)	5	レジリエンス	困難な状況をプラスに考え、前向きに挑戦し続ける力	与えられた環境の中で、ひるまず前向きに物事に挑戦することができる。	全く新しい環境や、思い通りにいかない状況でも、物事に前向きに挑戦することができる。
	6	価値創造	新しい視点やアイデアをつくりだし、課題解決に活かす力	すでにある事例を参考にしながら、課題の解決策を考えることができる。	集めた情報を活用して、自分なりの新しい視点やアイデアを持つことができる。

「社会に開かれた教育課程」実現に向けた大槌高校の取り組み

(3) 地域との連携協働

教育課程の実施に当たって、**地域の人的・物的資源を活用したり、学校教育を学校内に閉じずに実現させること。**

●大槌高校魅力化構想会議の設置

大槌町長が座長となり、中学校やPTA・同窓会等もメンバーに加え、目標を実現するための組織体制を整えた。



●教育課程を支えるコンソーシアムの構築

大学、地域行政、地元企業、社会教育団体、議会議員等をメンバーに加え、教育課程での地域連携・協働を推進する体制を構築した。



マイプロジェクト（個別最適な学び）を支える体制

マイプロジェクト

地域との連携協働

将来像の明確化

進路実現



子どもの発達障害
を考えたい

放課後デイとの
連携協働

ペアレント
ソーシャルワーカーを
育てたい

社会福祉学部へ
進学



郷土芸能の
価値を考えたい

東京大学海洋研と
連携協働

郷土芸能の価値を
地域づくりに
活かしていく

人文社会学部へ
進学

[事例紹介] マイプロジェクトに取り組む大槌高校Aさん



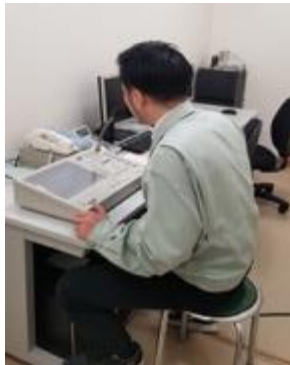
- 東日本大震災津波で、母親と弟、妹が犠牲になった
- 「あのときなぜ家族は逃げなかったのか」という疑問と救えなかった後悔を持っていたが、口に出すことができなかった。⇒マイプロジェクトテーマに



震災時から使用されている「防災行政無線」の課題を洗い出し
よりよいアナウンスへの改善に向けた効果検証実験を実施

1 大槌町役場危機管理室と
協働して課題の洗い出し

複数パターンの
避難アナウンスを作成し
実際に役場職員に録音をしてもらう



2 地域に出かけて効果検証
住民にアンケート調査

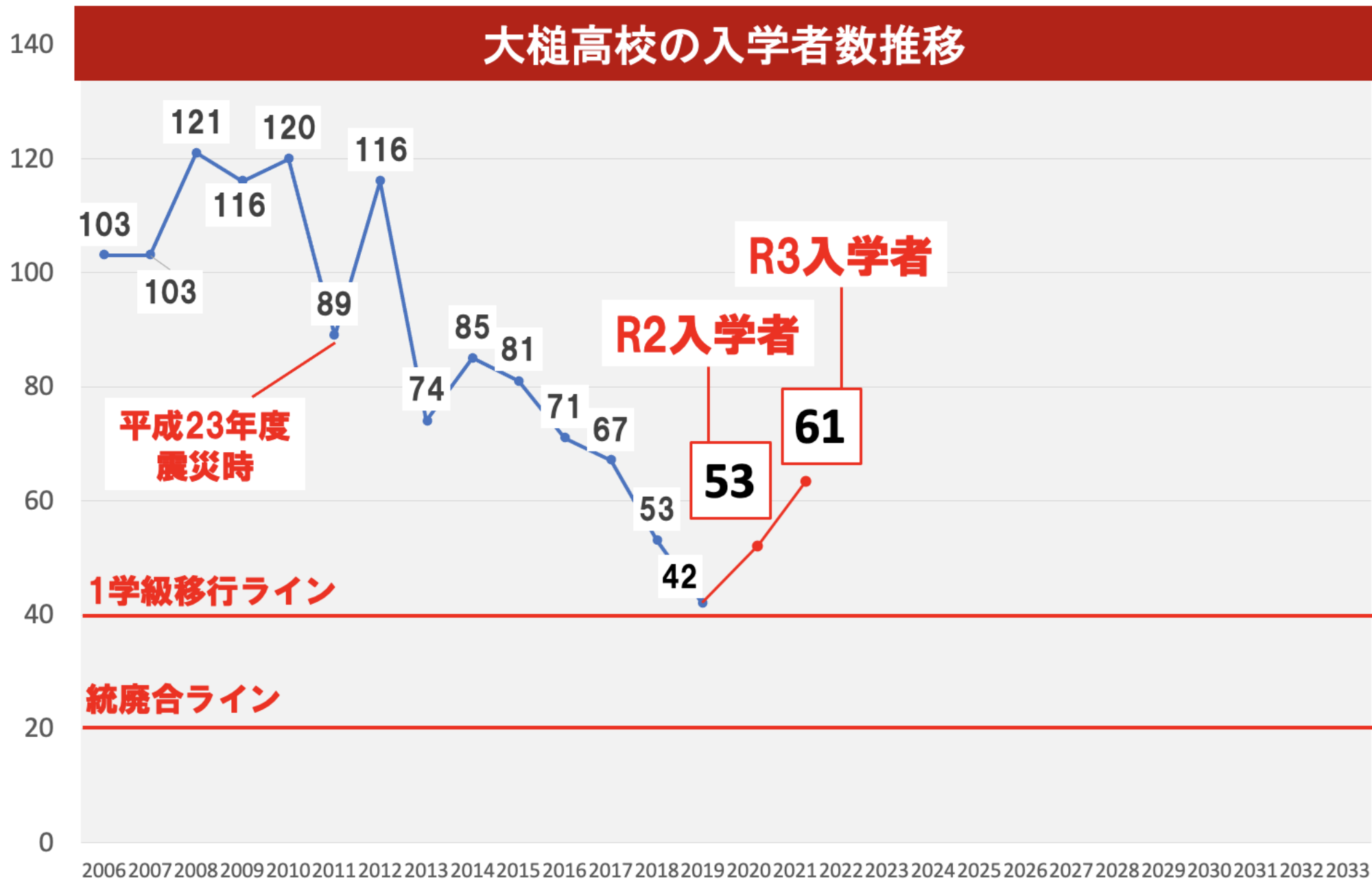


3 カウントアップ方式の
無線に避難促進の効果があることを提案



大槌釜石の防災無線
(5万人への影響)が見直されることに

[参考] 生徒人数の飛躍的増大



外部人材（コーディネーター）が入ることでのメリット

1 「当たり前を疑う」ことで新たなアイデアが生まれる

⇒学校の慣習や常識を疑い、既存の取り組みをより良い方向へと転換させることで、生徒自身も主体的に考えて行動することができる。

2 外の視点だからこそ、生徒の可能性を広げる

⇒外部人材が通常の学校生活で行う活用より難易度が高いことにチャレンジさせたときに、生徒が教員の予想を超えた能力を発揮することがある。

3 リソースを提示することで、活用が生まれる

⇒地域人材やICT教材等の様々なリソースを提示することで、授業改善や学校運営の効率化につながる。

外部人材（コーディネーター）が活躍するために必要な要素

1 コーディネーターが持つ役割の明確化

⇒校長自らが学校の課題と必要なリソースを把握した上で、コーディネーターにどのような役割を持たせるのかを明確化することが重要ではないか。

2 継続的に活躍できるような待遇の検討

⇒自治体や学校がコーディネーターの働きやすい環境や待遇を整えていくことで安定的に活動ができ、より多くの外部人材が学校の中で活躍するのではないか。

3 学校の中に複数の職性が入るような仕組みづくり

⇒教員という均一性が高い職性だけでなく、多様な職性の人々を学校内に多く取り入れていくことでお互いの協働が生まれるのではないか。